

令和6年度

信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会

いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校5学年・6学年への質問・感想

- ・ 課題を克服するために、力を尽くしたことは何でしたか。
- ・ 探究的な学習を通して、クラスの中で大きく変わったことはありますか。
- ・ 権利を学んだことを基に、学びを広げていたきっかけが印象に残った。SDGsとの関連を意識していて、学びに繋がられるものが何気ない生活の中に多くあるのだろうと感じた。様々な状況と向き合いながら生活している方へのインタビュー等を通して、学びを深めていたのがいいなと思った。改めて当たり前を考えることの大切さを感じた。
- ・ きずなの森というものを作った時に形だけになってしまい、中身が詰まっていなかったという状態になった際、今の現状を客観視して捉えられたことがいいと思った。また、アスリートの方と交流するという活動を行うことで、視覚障害者の日常に触れる機会となることに加え、自分たちの日常を捉え直す機会となったことがとてもいいと思った。当たり前のことが当たり前じゃないと感じた時、そのものを感謝する気持ちが生まれ、より幸せを感じやすくなると思う。
- ・ 様々な経験を通して、人権問題について考えられており良かった。また、当たり前と思っていたことが当たり前でないことに気づくことから始まる学びについて、深く掘り下げられておりとても良かった。
- ・ 「当たり前」のことのありがたみを感じることができました。新聞を通した様々な活動やブラインドサッカーの話がとても印象的でした。高学年らしい、落ち着きや聞き取りやすさを感じることができました。
- ・ 素敵な発表ありがとうございました。自分たちと異なる立場の人のことを考え、行動していてすごいとおもいました。
- ・ 当たり前について考えることはとても大切なことだと思った。私もたまに「あたりまえ」について考えることがあるが、それは答えの出ないものであるため、難しい。この発表を通して、一人でも「あたりまえ」について考えるようなきっかけが生まれればいいなと思った。一人一人が「あたりまえ」を「あたりまえ」だと思わないような世界ができればみんなが少しでも幸せに生活できるのではないのかと思った。
- ・ 子どもの権利について私も今年度調べる機会がありました。その際に皆さんが出していたように権利が十分に届いていない人たちの存在を考えました。考えた結果ブラインドサッカーを行う等実際に行動することがとても素晴らしいなと思いました。自分たちでより良い憲法や権利を考えてみるのも面白そうですね！
- ・ 発表ありがとうございました。権利と責任について、平等に焦点を当てて考えられているのが印象的でした。現代では、ジェンダーレスの考え方や社会的立場の平等性などがより求められていると考えているので、これからも考えていきたい課題の一つであると感じました。
- ・ 「当たり前」ということがどういうものなのか考えることは、なかなかないと思います。これを疑い、問題にできることが素晴らしいと思いました。パラアスリートの方と会うことで、実際の声を聞くことでの学びは大きいと思います。学びがさらに広がるよう頑張ってください。
- ・ 「権利」に注目し、障がいをもった方にも思いをはせて考えていたことは、大人でも簡単にできることではありません。さらにそこから、パラリンピックの方に手紙を送る主体的な行動は本当に素晴らしいと思いました。そんな中で、「自分たちがいかに恵まれているか。」という話が出てきました。『であることとすること』という本があります。権利を行使できている私たちも、権利の上にあることに安住し続けていては、いつか権利を行使できなくなってしまうかもしれません。今後も学び続けて行動し、自分の意見を発信してってください。
- ・ 外国人の女性や子どもたちなど権利が行使できない人の立場に立って考えることができていて、自分以外のことに気づいたり、考えられることはとても大切なことであると感じました。また、自分以外の人の立場に立つということから繋げて、パラアスリートの方々に自分たちから手紙を書いたり、ジェンダーについても考えたりなど、積極性が学びに繋がっている様子でとても良かったと思います。他に、最初から最後まで、一貫して「当たり前を疑う」こともとても良かったです。発表ありがとうございました！
- ・ 自分たちとは立場も環境も異なる人がいることに気がつき、新聞記事を通して、自分たちでパラアスリートの方々と交流しようとする姿勢が素晴らしいと思いました。彼らと関わることで、自分たちの当たり前の暮らしについて考え直す貴重な機会になったのではないかと思います。
- ・ 児童は「当たり前」というテーマのもと、障がい者スポーツに注目し、実際に障がい者のスポーツ選手と交流した。この活動を通じて、障がいの有無に関わらず誰もがスポーツを楽しめる環境の大切さを学んでいた。また、選手の努力や工夫を知ること、多様な生き方や考え方への理解を深めた。「当たり前」とは人それぞれ違うことに気づき、多様性を尊重し合うことの重要性を考える貴重な学びとなったと考える。
- ・ 権利を得るには責任も発生するという大人でも分からないままの人が多い中で自分たちで気付く姿勢に感動した。実際にパラアスリートに触れて体験することで自分たちの分からない相手の気持ちを知るいい機会だと思った。
- ・ グローバルな問題に対して身近な所から当たっていく行動力がすごいと思った。

- ・ 当たり前について疑うということに関して特にジェンダーレスの問題は、私も最近ニュースなどでよく見るなと感じていました。女の子がピンク、男の子がブルーという概念なども変わりつつあることに当たり前を疑うことは難しいものの大事なのではないかと思いました。
- ・ 子供の権利など普段何気なく見過ごしてしまうことを考えていた姿から、再考することは重要だと思いました。
- ・ 形だけの中身のないものになってしまったという反省点から絆の森を具体的なものにしていけるような取り組みが印象的だった。当たり前のことを疑うということはとても難しく、大切な感性を育めるこの取り組みは非常に素晴らしいと感じる。
- ・ 当たり前とはなにかを疑い、パラリンピックの選手の魅力を記事にする、ジェンダー問題を議論するといった活動をこれからも続けてほしいです！
- ・ 使いたい権利があるのに使わせてもらえない人がいるということなどから、みんなが当たり前に生きられる世の中を作るにはどのようにしたらよいのかを考えさせられる発表でよかった。
- ・ 自分たちのしていることが本当に正しいことなのかという疑問から世間の人はどうなのだろうという疑問につなげることが出来るのは自分が社会に生きる一人であるという考えがあるからだと思います。これからもその考えを大切にしていってください
- ・ 子どもの権利条約についてを子どもたち自身が学ぶことは大切なことだと思いました。また、学校憲章を作るという取り組みが面白くて素晴らしい取り組みだと思いました。子どもの権利条約について学ぶことで、私たちが当たり前だと考えていることが決して当たり前ではなくて、日常生活について深く考える良いきっかけになるので良かったと思います。
- ・ 当たり前という言葉で片付けるのは簡単ですが、ひとりひとりの当たり前は違うということに気づけて良かったと思います。ジェンダーの問題に関しては女性だけではなく男性の機会の平等に関して考えてみるといいかもしれません。
- ・ 権利について考え、目標だけになっていたことを反省し、新聞を活用して、実際にパラリンピックの出場選手に手紙を送ってみるなど、大変かもしれないけど、行動にうつしているという点がとても素晴らしいなと感じました。
- ・ 探究活動を通して、権利を行使するためには責任が伴うことに自ら気が付いたこと、そして権利を行使することが難しい人々の存在に気付いたことは容易ではないはずです。未だに差別などが横行する中、人間として大切なことに気付く良い機会となったのではないかと考えます。世の中にある暗黙の了解であったり、当たり前を疑ったりすることに意味があると感じました。素敵な探究活動と発表をありがとうございました。
- ・ SDGsのどの目標に関連しているのかがわかりやすかったです。またパラリンピックの選手に話を聞くだけでなく、実際に体験を通して学習できていてよいと思いました。発表の話し方もゆっくりでかつはきはきと話せていて聞き取りやすかったです。
- ・ 当たり前とは何かを再確認するのは大切だと感じます。誰かにとっての当たり前は、他の誰かにとっては当たり前ではないかもしれません。当たり前が当たり前ではないと考えることが、思いやりにつながると思います。
- ・ いいづな学園グリーンヒルズ小学校5・6年生の皆さんの発表すばらしかったです。「当たり前って何だ!？」この感覚はとても重要なものでありこのような疑問を持つことができるのはとても素晴らしいと感じます。私が権利など当たり前のように自分たちを守ってくれているものについて調べそれが当たり前ではなく恵まれていると気づいたのは高校生の頃でした。小学生のころからそのことに気づけた皆さんはとても素晴らしいと思います。
- ・ 現代社会において、立場や性別、身体的な事情によって不当に不利益を被ってしまう人たちがいるということが大きな問題になっていると感じていました。当事者以外の目線では気付きにくい社会事情であると思っていましたが、そういった問題にフォーカスし、自分事として現状を改善するための行動を起こしたことは、誰も置き去りにしない社会をつくる第一歩になったのではないかなと思います。私もこの先、自分だけの「当たり前」という尺度で物事を判断するのではなく、柔軟な眼差しで社会を見つめられるように心掛けたいと感じました。ありがとうございました。
- ・ 疑問に思った社会問題や、興味を持った様々な問題に対して、実際に体験・当人に話を聞くことで、理解を深めるという探究活動に対する姿勢が素晴らしかったです。活動内容も、クラス全体の雰囲気と関係づけるなど、工夫が多く見られました。
- ・ 「権利と責任」というトピックから、「きずなの森」という学級憲章をつくり、当たり前について考えるというところへ学びが発展しているところが良いと思いました。権利や当たり前について考えていく中で、「社会の中で下される意思決定～新聞を通してパラアスリートと出会う」という内容につながり、パラアスリートに会い話を聞くという実際の活動を行うことは重要だと思いました。私も「当たり前を疑う」ことで、新しい世界が広がる重要なことだと思います。
- ・ 権利の行使には責任が伴うことや、権利を行使できない人がいることなどに自分たちの取り組みの中で気づくことが出来ていて素晴らしいと思います。ただ活動するだけよりも活動の根本にある問題を正しく理解したうえで行う活動の方が、何倍も得るものがあるし、たくさんのことに気づける目を持つことが出来るのではないかと思います。また、当たり前を疑う活動も非常に大事だと思いました。一人ひとり当たり前は異なるし、答えが一つであるとも限らないと思うため、これからも様々な人たちと関わりいろんな視野を持って活動を頑張ってください！
- ・ 「当たり前」に疑問を持つことは非常に大切なことですが、とても難しいことなので、これをテーマにしているみなさんはとても素晴らしいなと感じました。「権利には責任が伴う」という言葉は、今までの自分には足りていなかった考えであり、非常に心に刺さった言葉でした。また、自分のことだけではなく、全ての権利を持つ人々に目を向けている部分も見習いたいと感じました。

- ・ 当たり前ということについてしっかり向き合うことができていた。実際にパラアスリートと交流するなどして活動できている点が素晴らしかった。また、ジェンダーにも着目し、様々な視点での当たり前について思考を深めることができたのではないかと思う。これらの活動を活かして今後、自分たちの当たり前と他の人の当たりの違いを受け入れるようにするためにはどのような活動をしたらいいか考える機会を設けるといいかもしれない。
- ・ 国連憲章から権利と責任について調べ、社会の中での意思決定という部分からパラリンピックの選手について知ろうとチャレンジする。お題が最初から難しい内容でしたが、実際に選手とあったり調べていく中で学んだことは絶対に今後に生きると思
- ・ 世の中には権利を行使しにくい人もいるのではないかという気づきはとても大切だという部分に共感した。このような小さな気づきはこれからも様々な人を助けるときに役立つと思う。当たり前はなかなか疑うことは難しくそれを変えていくということはもっと難しいことであると私はこれまで感じながら生きてきた。ただ、この当たり前を変えることによってよりよい社会が生まれることがあるのでこれからもこの活動を続けていってほしい。
- ・ 「当たり前ってなんだ」というテーマで、SDGsやジェンダーに沿って学んでいた。自分たちのクラスで大切にしたい権利について考え、「学級憲章」を自分たちで作っているのは素晴らしいと思った。またその活動の中で自分たちで課題を見つけ、解決しようとしているのが素晴らしいと思った。また活動をユニットごとに分けることでやるべきことが明確に見えてきていたの
- ・ で良かったと思う。
- ・ 平等な機会へのアクセスについてのジェンダーについて今アメリカでは性別がどんどん減っていったり多様性が制限されようとしている現代において当たり前とはどのようなことを疑い多様性について考えることは今後の多様性の在り方についての考えが深まるきっかけにもなると思い素晴らしいと思った。
- ・ 権利と責任の関係という一見困難に思える内容でも自分たちの言葉で分かりやすく伝えられていて良いと思いました。また、「当たり前を疑う」といった当たりのことに感謝する形で授業を展開していったのもとても良いと思いました。
- ・ 「当たり前とは何か？」という疑問を持つこと自体が、とても素晴らしいことです。日常の中で当たりに思っていることに疑問を持つのは、簡単なようで実はなかなか気づけるものではありません。そして、パラスポーツに注目し、実際に体験してみるという行動力にも感心しました。知るだけでなく、自ら感じ、学び、考えることが、これからの世界を広げていく大切な力になります。これからも、さまざまなことに興味を持ち、挑戦し続けてください！
- ・ 3・4年生の発表とも通じるところがあるなと思いました。自分たちの当たり前が当たり前でない人たちのことを考えることで、今後生きていく中で「マイノリティー」の立場になって考えることが出来るようになってなると思いました。
- ・ 子どもの権利条約について学んだことから、学級憲章を作る中で、権利には同時に責任が伴うことにも気づけていました。「当たり前を疑う」というコンセプトを通して、あらゆる事象を根本から考え直している点がとても良いと思いました。自分はいかに恵まれた環境にいるか、再認識する良い機会でした。私も、今後は普段当たりに思っていることをもう一度問いなおし、自分が有する権利とそれに伴う責任について学んでいきたいと思います。
- ・ 具体的な活動というよりも、「当たり前」なことについて様々な視点から考えていく皆さんの様子にとっても感心しました。大人顔負けの思考力で権利や平等について考えており、私もとても考えさせられました。ありがとうございました。
- ・ 自分たちで考えた「きずなの森」という名称に対して、考えたことで満足せずに、もっと具体的に出来ればよいと反省している姿勢が、素晴らしいなと思いました。またそのようにして、自分たちで考えたものに対しても疑いの目を向けていくことが、当たり前ってなんだろうと考えていくときに大切になってくるのかもしれないと考えました。
- ・ 「当たり前とはなんなのか」ということについて疑問を持ち、実際にブラインドサッカーの選手にインタビューをしたという発表を聞いて驚きました。自分たちが疑問に思ったことや興味を持ったことにこれからもどんどん追及しようとする姿勢を大事にしていってください。素晴らしい発表ありがとうございました。
- ・ まず、テーマが「当たり前」ってなんだというもので自分たちが今生きているのが当たり前なのか考えさせられる発表だと思った。主に取り扱っている題材としてパラリンピックなど障害を持っている方にフォーカスしていた。このように健常者ではない方に実際に会って色々聞くことで深い学びを得ることが出来たのではないかと思う。ジェンダー平等についても触れていてこの活動を通して自分の当たり前についての価値観が変わっていったらいいと思う。
- ・ 当たり前が何かを考えることは日々生きていく中でとても大切なことだと思います。自分が当たり前だと思っていることも、社会に出てみると違う考え方があったり、必ずしも当たり前であるとは限らなかったり、様々な人の価値観を知ることは自分の生活を見直すきっかけにもなると思います。今回の学習で得た気づきを忘れずに、ぜひこれからも社会の変化に目を向けて生活していってください。
- ・ 大学生である自分にとって、新しい視点を発見することにつながる素晴らしい発表でした。ありがとうございました。カンボジアの小学校の皆さんへの質問も、とても元気がよく感心してしまいました。これからの活躍にも期待しています！！
- ・ パラアスリートと出会い、実際にブラインドサッカーをすることによって視覚障害者の体験をし、普段見えていることが当たり前ではないということに気付いて良かったと思いました。実際に体験をすることで当たり前を見直すことはとても良い経験になったとおもいました。
- ・ 世の中の社会事情を「自分ごと」として捉える事はとても難しいが重要な事であると思った。新聞記事に興味を持ったパラアスリートと手紙を通して交流し、実際に会うという事はとても良い経験になるので良いと思った。

- ・ 当たり前とは何かというテーマに私はとても興味をひかれました。「当たり前」と感じることは人それぞれ異なると思います
が、私も自分自身が普段当たり前と感じていたことは誰かの当たり前ではなく、日常が奇跡の連続であることに気付くことが
出来ました。ありがとうございました。
- ・ 「あたりまえってなにか」このテーマはとても哲学的で明確な答えがあるわけではないと思います。世界には様々な人がい
て、人によって「あたりまえ」という環境は違うと思います。皆さんが他人ごとではなく、自分事として探究学習を行っていた
のが素晴らしいと思いました。
- ・ 私たちが持つ権利とそれに伴う責任に着目して、「当たり前」を考えるというテーマが非常に興味深く感じました。また、研
究の中でアスリートの方に実際にインタビューをしたりともにスポーツを体験したりと、文献調査だけでなくアクティブな活
動が行われていて非常によい研究だと思いました。
- ・ 「当たり前」を疑問に思い、そこから現在のいろいろな諸課題を解決しようとしているのがいいと思います。個人間から社会
間までさまざまな当たりの違いは存在していると考えています。それを対立からどう融和に持っていけるのかを考える必要が
あるのだと私も思いました。
- ・ 当たり前だと思っていたことが実は当たり前でないと気づけることはとても貴重な機会です。その上、その当たり前でないと
気づいた事について、深く学習するのはとても素晴らしいことです。また、ブラインドサッカーの体験など、自分たちとは置
かれている環境が違う人たちが見ている世界を体験したのはとてもよいことです。ただ知識として知っているのと実際に体験し
たのでは、天と地ほどの差があります。そして、そこから平等について考えたのも素晴らしい事です。当たり前を疑うという
ことを軸に様々な事にチャレンジしていて、アスリートとの交流などの実体験もまじえてこともあり、具体性のあるわかりやす
い発表でした。
- ・ 当たり前を疑うというキーワードを基に色々なことを調べ、行動しており、その姿勢がすごいと思いました。発表を通して当
たり前とは？と自分も考えるようになり、気づきを得ることができ、完成度が高い発表だと感じました。
- ・ 当たり前について疑問を抱くというのはとても大事な考え方だと思います。現代社会でも多く取り上げられている問題につ
いても小学生とは思えないほど考えられていてよかったと思います。
- ・ 社会的に立場が強くなく、自分の権利を保持し続けることが困難な人々がいるという点に着目していて、非常に興味深かった
です。特に、障害者の社会活動という観点から、クラスの特徴である「スポーツ」とむずびつけて、これまでの自分たちの当
たり前を疑いつつ活動を行っている点が、非常に良いと感じました。障害を持つ方々と同じ視点に立つことで、現在困って
いること・どうすれば社会参画しやすいのかなどを考えることは、課題解決のための重要な糸口になっていると思いました。
- ・ スライドがとても視覚的に見やすくなっていてわかりやすい発表だったと思いました。また、喋るときに抑揚をつけたり大事
なことを丁寧に喋ったり、工夫があって素晴らしいなと感じ、とてもいい発表だったと思いました。
- ・ 発表を聞いて、当たり前という言葉の意味を見直す必要性を感じました。一言で「当たり前」といっても、人それぞれ「当
たり前」の範囲は変わってくると思います。そのため、権利を誰にとっても当たりのものにするためには、自分とは異なる立
場の人への理解を深める必要があると感じました。発表で紹介されていた障害のある方のお話を聞いたりブラインドサッカー
をプレイしてみたりという活動は、自分とは異なる視点を取り入れるよい機会だと思いました。私自身も他の視点を取り入れ
視野を広げていくとともに、教師として教壇に立つ際には子どもに豊富な経験を提供できる存在でありたいです。
- ・ 当たり前を疑うという事を通して、結婚って何だろうなど具体的な多くの当たり前について話し合う事で日々を考えて過ごせる
ような気がしました。自分自身ももっと当たり前を疑うという事を身近なことから意識していきたいなと思いました。
- ・ 憲法をクラス内で作ることで憲法という難しいものが身近に感じられ、それによって社会で実際に起きている問題に気づき自
分たちが恵まれているということに気づけたのはとても大きな一歩であるのではないかと思います。そのうえで、先ほどの学
習で気づいた社会的な不平等を実際に被っている人と実際にお会いすることで考えを深めていくという活動も本当に素晴らしい
なと思いました。
- ・ 様々な問題について、調べ考え議論するという取り組みを小学生の時から積極的に行っていることに感動しました。「権利と
責任」のテーマにおいて、学級憲章を作っていたことが印象的でした。現在では当たり前として捉えられている事であっても、
そのことについて一度よく考えることは意味のあることだと思いました。
- ・ 「当たり前を疑う」という言葉が特に印象的でした。ジェンダーという言葉や同性婚という言葉はなじみがないかもしれませんが、これから人々が幸せに暮らしていくのにとっても重要な言葉だと思います。小学生の時からそのような言葉やニュース
に触れることで、将来幅広い視野を持った色んな立場の人に寄り添える人になれると思います。私は将来教員になりたいと考
えています。当たり前を疑うということは教育においても重要な観点だと感じています。今回、発表を聞いて私も当たり前を
疑いながら様々な視点から物事を考えられるように努力したいと思えました。
- ・ 日々の生活のなかで当たり前のように感じ、考えることもないようなことをもう一度原点に戻って考えてみることはとても大
切なことだと思いました。自分や友達と考えてみることで、課題が分かったり、大切にしなければならぬことが分かったり
ととてもいい学びがあると感じます。素敵な発表ありがとうございました。
- ・ 自分たちの権利について考える際に、当たり前とはなにかを考えたり自分ごととして考えたりする姿勢をとっている点が良いと
思いました。またこの活動を、権利が行使しにくい人いわゆるマイノリティーの方々の権利を学ぶことに発展させている点
も、今後必要とされる良い視点だと思います。

- ・ 私は皆さんの活動の中で特に印象に残ったのは、実際にパラスポーツのアスリートの方々とコンタクトをとっていたことです。実際にお話を伺うことで、障害を抱えてる当人しか感じ得ない不利益や権利の侵害について知ることができると思うので、人から話を聴くという活動は素晴らしいと思いました。
- ・ 自分たちのクラスの学級憲章を作る活動を通して世の中の平等に権利を行使できない人に目を向ける幅広い視点が素晴らしいと思いました。パラリンピックの選手との交流を通して、当たり前に使っている感覚が実はあたりまえではないことを実感して、クリティカルシンキングを持つことが出来たのではないかと思います。障がい者・外国人労働者だけではなくて他にもいろいろな不平等があります。今後も当たり前ではないという考えを持ち続けていってほしいと思いました。
- ・ 子どもの権利条約から自分たちがたいせつにする権利を決めて考えることはいいと思った。形だけとなってしまったこと、権利の行使がしづらいことを新聞記事から見つける視点がいいと思う。自分たちのクラスの特徴を生かして活動を決めることがいいと思った。パラリンピック選手を知り、その選手にお手紙を書くことにチャレンジすることということで何かつかめることがあるので、積極的になんでもやってみる姿勢があることが素晴らしいと思う。この行動があったからこそ、ブラインドサッカー選手とのつながりを得ることができたのだろう。行動できるかがカギだと思う。
- ・ 立場や環境の異なる人について気づき、自分事として考えるためにはどうすればいいのかをよく理解して取り組んでいると思いました。報道では知ることのできないその人の魅力を知るために、自分たちで実際に話を聞いてみようという連絡する行動力には感嘆しました。これからも自分たちが体験することで新しい視点を探し続けてください。
- ・ 当たり前を疑うというのは、私たちの暮らしや日常に疑問を持つということであり、とても難しいことだったと思います。そのなかでも、パラアスリートの方やカードやゲームをとおして、ジェンダーや社会の中での意思決定について学び、探求する姿はすごかったです。
- ・ まず、「当たり前」とは何かというテーマを見て、非常に興味がひかれました。様々な方と関わり、学びを深めていて、すごいなと思いました。様々な人と関わることは、価値観や視野を広げることにつながり、学習において重要であることだと思います。
- ・ だれでも同じように権利を行使できるわけではないということを忘れずに持っていたいと思いました。私も人の魅力に気づきたいと思いました。実際に体験することで気づけることはたくさんあると思います。その機会に恵まれてとてもうらやましいです。
- ・ 子どもの権利条約について考えるという概念的なものについて考えられているのがとてもすごいと思いました。クラスの人といろんなことについて議論し合うだけで、たくさんの異なる意見や当たり前気づくと思うので、今後も相手を否定せずに受け入れられる議論を重ねていってください。
- ・ いづな学園グリーン・ヒルズ小学校5学年・6学年の当たり前ってなんだ！？を視聴させていただきました。普段当たり前で過ごし、見過ごしてしまうものたちを再確認するために実践を行いより深めていくということに驚きとワクワクがありました。
- ・ 「当たり前って何だ！？」というお題で取り組んでいたこのクラスはクラスで話し合いをして必要なことを発見したり、新聞などのメディア媒体から現状の当たり前のように感じれることから問題点を発見しているのがとても難しいことながら行い生徒たちなりに行っていることがとてもすごいと感じた。
- ・ 憲法や法律関係の話についてはわたしは、小学生が扱うには少し難しすぎるのではないかと考えていた。しかし立派に発表していたし、子供であるからこそ子供の権利条約について考えるというのは非常に良いことだと思いました
- ・ この学習によって、児童らは社会の「当たり前」に疑問を持ち、多様な視点で考える力を身につけることができたと思う。平林さんというパラリンピックアスリートとブラインドサッカーをしたり、ジェンダーの問題について議論したりすることで、子どもたちは「平等な機会」とは何かを深く考えることができた。また、子どもの権利条約を学び、学級憲章を作ることで、身近な社会から変えていこうとする姿勢も身についたことでしょう。あなたたちのこのような探究活動が、より多くの子どもたちに広がってほしいです。
- ・ 当たり前は身の回りに常に存在するが、いつも気づかずに鵜呑みにしていることが多いと思います。それは「当たり前」だからです。そのような当たり前に対して、疑問を持つことはさすがだと感じます。これからもその視点を大切に、いろいろなことに疑問を持ってください。
- ・ 「当たり前ってなんだ!？」をキーワードに議論する学習活動のお話を聞いて、常識を疑うことも時には大切だということに気づかされた。これからも社会の中で惑わされず芯の持った考え方ができるような学習をしてもらえるとうれしいと思う。